

第6回 大関和の功績

大関和は、日本で最も早い時期に正規の訓練を受けた看護師「トレインドナース」の1人として、正しい知識と技術をもって多くの傷病人に寄り添い、献身的な看護を行いました。今回は和が生涯をとおして取り組んだ働きについて紹介します。

まずは、看護技術の向上や後輩看護師の育成です。新潟県高田(現、新潟県上越市)の知命堂病院では、看護師として働くだけでなく産婆看護婦養成所で講師を務めました。東京に戻ってからも、東京看護婦会講習所の講師に就任し、明治42年(1909)には自身で大関看護婦講習所も開講しました。正しい知識と技術、加えて自身の経験を伝え、後輩を育成したのです。

次に、感染症対策と公衆衛生の普及です。当時、たびたび流行したコレラや赤痢などの感染症は、多くの人々の命を奪う恐ろしい病気でした。和は看護学校で学んだナイチンゲール方式にもとづき、排泄物の正しい処理、丁寧な清掃と換気、患者の身体や衣服を清潔にすることを徹底し、大きな効果をあげました。女子学院(前身のひとつが桜井女学校)が昭和3年(1928)に出版した『女子学院五十年史及学窓回想録』掲載の手記の中でも、群馬県や埼玉県でそれぞれ100人程の赤痢患者を看護し、死者を5~6人に抑えたと振り返っています。

最後に、看護師の仕事やその存在の重要性の普及活動に尽力したことです。明治32年(1899)に『派出看護婦心得』を、同41年(1908)に『実地看護法』を刊行するなど、著書の刊行や雑誌への寄稿を通して、看護の重要性や意義、実践方法、看護師としての心得について普及啓発を図りました。

以上のように、和は日本の近代看護の先駆者として多くの功績を残しました。そんな和の生涯や活躍について、時代背景や彼女を取り巻く人物と共に紹介する展示会「近代看護の先駆者・明治のナイチンゲール 大関和」が、3月14日④から那須与一伝承館で開催されます。ぜひご来場ください。

晩年の大関和 (知命堂病院提供) ▶

